

近世紀行文にみる大和国の観光景観の変遷に関する研究

A Study on the Transformation of Tourism Landscape in Yamato during Edo Era

○白田直輝<sup>1</sup>, 押田佳子<sup>2</sup>

Naoki Shirata<sup>1</sup>, Keiko Oshida<sup>2</sup>

**Abstract:** In this study, we investigated the evolution of tourist landscapes through the analysis of travelogues, focusing on Yamato Province during the Edo period, to clarify the tourism resource potential inherent in cultural landscapes. As a result, we identified that the "tourist landscapes representative of the early modern period" preserved the tourism value of that era and became the foundation for contemporary tourism.

1. 背景及び目的—2004年の文化財保護法改正に伴い文化的景観は文化財の一類型に加わり、「文化的景観は人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観」と定義づけられた。一方で、文化的景観は「人々の生業と共にある」とされるが、しばしば観光地と共存、あるいは近接することでそれ自体が観光資源となり得る。本研究では文化的景観が持つ観光資源性を把握するため、庶民から武士に至る多くの人々が旅行した記録が残された景勝地の一つである大和国を対象に、紀行文の読み取りを通じて観光景観の変遷を捉えることを目的とする。

2. 調査方法—調査概要を Table1 に、調査文献を Table2 に示す。

3. 調査対象地—分析対象地を Figure1 に示す。

4. 結果及び考察—江戸期の152年間(1696年~1848年)に大和国を訪れた5人の紀行文における観光景観の読み取りを基に、「近世を代表する主要観光景観」「近世初期に多く見られた観光景観」「近世後期に多く見られた観光景観」に3分類した。以降、これらに従い、特徴のある地区の結果及び考察を述べる。

4-1. 近世を代表する観光景観—Table3より、全文献に記載された観光景観は、「東大寺周辺」「吉野」「吉野山口」「多武峰」「郡山~斑鳩」「三輪~初瀬」「當麻」の

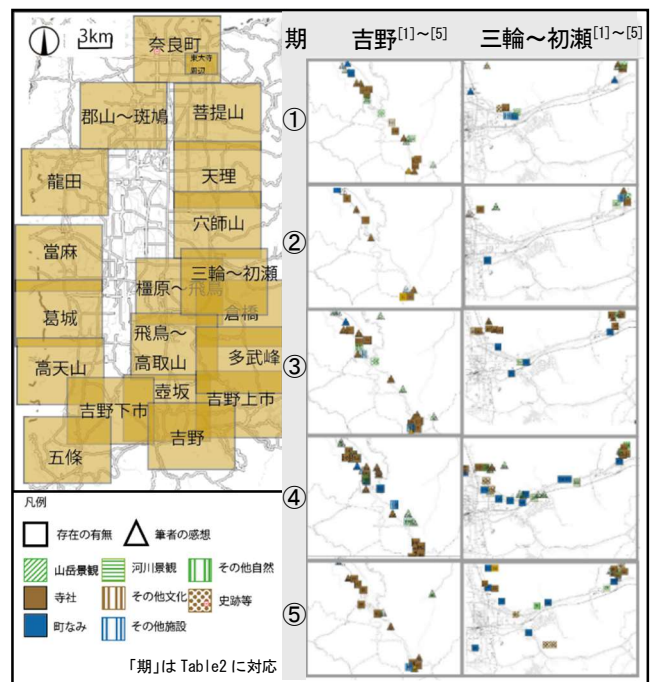


Figure1.分析対象地と観光景観の変化の一例

7地区であった。このうち「東大寺周辺」「當麻」は東大寺のように現代においても著名な寺社の記述が全文献に顕著に多く、「和州巡覧記」に「春日より東大寺へ行には、此山の下を通る。又つづら尾山とも云。此山のふもとをとほる。おもしろき境地にて佳景也。」のように当時の観光においても特筆すべき景観と認識されていたことが伺える。また「吉野」「多武峰」の2地区は全文献に寺社と山岳景観が多く記され、両者が重層的に捉えられる景観が好まれたと考えられる。「郡山~斑鳩」「三輪~初瀬」の2地区は全文献において寺社、町なみの割合が半数近くを占めており、さらに三輪~初瀬では当初三輪と初瀬周辺のみ記述であったが、時代が下るにつれ、両者を繋ぐように連続した記述が見られたことより、両地区が徒歩圏内の観光地として認識されるようになったことを捉えた。

Table1.調査概要

調査方法	文献調査
調査対象	Table2に示す江戸期に書かれた紀行文、5文献
景観記述の分類	景観記述をもとに、自然景観、人文景観、町なみ景観に大別し、そこから以下8項目に小別した 自然景観【山岳景観/河川景観/その他自然】、人文景観【寺社/その他文化/史跡等】、町なみ景観【町なみ/その他施設】

Table2.調査文献

期	年	紀行文名	筆者	職種
①	1696	和州巡覧記	貝原益軒	学者
②	1765	大和めぐり	蓑笠庵梨一	俳人
③	1826	山海日記	猿渡盛章	神主
④	1838	大和巡日記	安田相朗	武士
⑤	1848	芳野日記	水室長翁	神主

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

4-2. 近世初期に多く見られた観光景観—Table3 より、大和国の北部に位置する「奈良町」「龍田」「天理」の3地区は時代が下るにつれ、文献当たりの町なみの記述の割合が少なくなる傾向が見られた。また、天理は「大和巡日記」において「昔の寺は池の北に有甚崩れ込たる古寺也餘坊は皆甚けつこふ也」とあり、町なみに代わり寺社や史跡等など人文資源が多く見られるようになった。

4-3. 近世後期に多く見られた観光景観—Table3 より「穴師山」「飛鳥～高取」「橿原～飛鳥」「五條」の4地区では時代が下るにつれ、文献当たりに占める自然景観の記述割合が増加する傾向が見られた。また、「橿原～飛鳥」では「芳野日記」において「すへてこの三つ山はみな高からず、同じやうに見ゆる中に、猷火のみそ、心はかり、峰高くて雄々しく見えける」とあり、筆

者の感想を含めて山岳景観が記されたことより、この地区における山岳景観が特筆すべきものであったことが伺える。

5. まとめ—以上より、大和国の観光景観は、「近世を代表する観光景観」では、当時の観光価値をそのままに継承している様子を捉えた。また、「近世初期に多く見られた観光景観」「近世後期に多く見られた観光景観」では、観光景観の変化が明確にみられた。これらの変化については今後物理的な喪失によるものか流行など時勢的なものであるかを検証すべく、追跡調査を行う予定である。

6. 参考文献—[1] 貝原益軒,益軒全集巻之7,国書刊行会,1973 [2] 高橋梨一,大和めぐり,興風社,1915 [3] 府中市郷土館,猿渡盛章紀行文集,府中市教育委員会,1980 [4] 宮本常一,谷川健一,原口虎雄,日本庶民生活史料集成 第2巻,三一書房,1969 [5] 櫻園西尾豊作,氷室長翁全集,咬菜塾,1932 [6] 国土地理院,地理院地図 Vector,最終閲覧日 2025年9月30日

Table3.各文献における記述の分類と景観記述

分類	地区	期	自然景観(件)			人文景観(件)			町なみ景観(件)			計	景観記述(抜粋)				
			山		河	他自		寺	他文		史			町		他施	
			a	b	a	b	a	b	a	b	a			b	a	b	
近世を代表する観光景観	東大寺周辺	①	1	2			2	3	5					2	15	此山のふもとをとほる。おもしろき境地にて佳景也。	
		②	1				1	2	8						12	一の鳥居より本社へ十八町と云り此間の風景は草にあそふ。	
		③	2				2	10	12					1	2	29	大門の長さ凡十八町ありとぞ此左右を春日野といふよしもありぬべし。
		④	2		1	2	7	2	15					2	2	33	春日山よりつづき一段ひくき芝山有甚好景也是三笠山と云は大なるひか事のよし。
		⑤					1			9						10	手向山北にしけれりる中に春日山、若草山かうかうしく立ちならび、櫻花すまますまきに咲きみたれ、小鹿のうちむれて、旅人にもこのひたはるたはるさま、いひしらずおもしろし。
	吉野	①	5	2			1	4	7	1	1			1	1	24	六田の方の麓より奥の院まで、百餘町の間、民家なき所は、左右皆並木の櫻也。又左右の傍も、下の谷も、左右のかげなる所々の谷々にも、皆櫻多し。まれに杉有。二月は花の世界と云つべし。
		②						3	3	1	1				1	9	右の方はあるひは山或は木立あるひは谷なり左は大やう谷にして吉野川はるかに流れたり。
		③	4	1	1		1	6	7	1				1	1	25	こよひのやとりハ殊に大にきよらにして三階の高殿より谷を臨む風景いはむかたなし。
		④	2	2		1		6	13	1		1	1	2	1	30	四方八方を見れば山又山波のうねりを見るか如峯重り盡限りも無山園也。
		⑤	1			1		3	7	1					1	15	先づ這ひあかりてうわすに千本の花残りなく、けにも翁か詞にたかはす、けふことは盛なりけれ。
	二輪(初瀬)	①	1	1			1	1	2		1	1	2	1	1	12	三輪より先は兩山澗水を夾んで谷中長き故に、長谷と書なるべし。～省略～ 麓の町民屋多し。
		②	1		1	1	1	2	1					1	1	9	初瀬寺は山門より本堂迄三町はかりもありと覺ゆすへて廊中を登る事四曲にして堂に到る。
		③				1	1	3	7	1					4	17	山上の観音堂に至るまで復道ありて詣る人雨の愁なし石階三曲にして復道もまた三曲なり。
		④	4	5	2	3	2	1	1	7			2	1	8	32	初瀬寺は山門より本堂迄三町はかりもありと覺ゆすへて廊中を登る事四曲にして堂に到る。
		⑤				1	2	1	5	1		4	7	1	1	22	まつ代糺坂よりうちむかひたるけしき、花はさかりと見え、雨さへはれてあはれかきなりし、
當麻	①	1	1			1	3						1	1	8	二上が嶽の下、まりこの山の麓に在り。	
	②						1	1					1	1	4	寺は小坂を登りて本堂彌陀堂奥の院なりとありて大伽藍なり。	
	③	4				1	2	2					1	1	10	こなたの野中より山々を望むにかつらき山いとちかく見ゆけふいいただきに雲なかかかれば尤高山なり。	
	④	1	2				2	1					2	2	10	二上嶽の下まりこの山の麓也～省略～ 境内基弘く大寺也。	
	⑤						2						1	1	3	うしろ堂なる寶藏。	
近世初期に多く見られた観光景観	奈良町	①			2			1	1	1	3	2	5	6	1	32	此東に蓬萊の丸山とて、老松茂りたる小山、廻りに大いなる池あり。是天子の御陵ならん。
		②														0	
		③			1			5	4			1	1	5	1	18	こより奈良町の村かたへハ佐保川に添て上りゆく左の小高き所に眉間寺あり聖武天皇の御御立にして諸堂奇麗なりうしろの山に聖武天皇光明皇后の御陵相ならべり登りて見まほしけれと山の下に門ありて案内なくはいれずといへばここに持てかへりぬ。
		④	1	1				1	1	1	2	2	6	3	27	芝原二カ方堀四方二有芝生たる小山の形有其後二又四方堀有て水十分二たたへたる其中樹木生茂る御陵有是神功皇后ノ御陵と云。	
		⑤						2	4	1		1	1	1	10		
	龍田	①		3	1			1						4	9	神南の山の側なる岸なり。其下に紅葉川とて、小溝有。	
		②														0	
		③		1	2			3	1				1	2	1	11	むかひに岡あり是神南山なり。
		④	2	1	1	1	1	2						3	3	14	戸の口はかりさしのそきて下に下る處に神南の森有少しはへ茂る森也先此山の内に森有。
		⑤			1	1	1	1								4	御社のうしろのかたに横をれたるは、うつしき松山にして、今もなほ夜半にはひとりこえつへき心地す。
	天理	①						2				1	3			7	永久寺とて、鳥羽院の創立し給ふ眞言寺有。大寺也。
		②						1				1	2			4	まちの末より右へ入ること三町はかりにして人丸の哥塚といふ石を立てしとす。
		③														0	
		④						2	6		1	2	5	1		18	昔の寺は池の北に有甚崩れ込たる古寺也餘坊は皆甚けつこふ也。
		⑤						1	3			1	3			8	綱のかたへいといと廣き池あり。
近世後期に多く見られた観光景観	橿原～飛鳥	①	3			1	1				4	3	4	1	18	國中には、此三山の外に山なし。吉野の方より来れば、蘆原嶺より北に、三山一目に見ゆ。	
		②														0	
		③	2				1	1		1	5	8	1		19	此山によち登る一町あまりにして高き山にハあらず。	
		④	5		1	2	8		3	5	3	10	2		39	此山の向ひ左右に耳無山香山有想分此暮ハンの目をもちたる如平原にて只此の山向ひ合たり。	
		⑤	4				2	1		1	1	1	1		11	すへてこの三つ山はみな高からず、同じやうに見ゆる中に、猷火のみそ、心はかり、峰高くて雄々しく見えける。	
	五條	①		1												1	紀州より越る宇野嶺と云。五條より一里北なり。
		②														0	
		③	2		1	1		1				1	2			8	みちけはしくして勞たし嶺にハしはし平らかなる所ありて四方の山々残るくまなく見はるけて景色すぐれたり。
		④	1	3	1	1		2				2				10	此處坂有宇野嶺と申甚の小坂也此邊すへて吉野川を付て行也。
		⑤														0	

[凡例] a:筆者の感想 山:山岳景観 河:河川景観 他自:その他自然景観 寺:寺社 他文:その他文化 史:史跡等 町:町なみ 他施:その他施設  
b:存在の有無